

交流・文化施設等整備検討委員会 第11回委員会

会 議 次 第

日 時：平成21年 6月25日(木)
午後3時～5時(予定)まで
場 所：上田商工会議所4階議員会議室

1 開 会

2 委嘱式

3 市長あいさつ

4 委員長あいさつ

5 議 事

- (1) 市民公聴会及びパブリックコメント等の実施報告について
市民公聴会での補足資料(市の財政見通し等)について
市民意見募集の結果概要

事前送付資料

- (2) 最終報告に向けての課題等の整理について

資料1

- (3) 今後の進め方について

資料2

6 閉 会

配布資料

資料1 中間報告に対する市民意見の内容と最終報告に向けての課題等の整理について

資料2 今後の進め方

事前送付資料

- ・「交流文化施設のありかた中間報告」に対する市民公聴会意見整理表
- ・「交流文化施設のありかた中間報告」に対するパブリックコメント整理表
- ・出前ときめきのまち講座「交流・文化施設の整備について」意見整理表

交流・文化施設等整備検討委員会 委員名簿

選出区分		ふりがな 氏名	備考
学識経験者	都市計画系	ひ ばたやすお 日端康雄	慶應義塾大学名誉教授
	建築系	つちもと としかず 土本俊和	信州大学工学部教授
	ホール系	みやま よしお 美山良夫	慶應義塾大学文学部教授 慶應義塾大学アート・センター所長
	美術系	いとう ようこ 伊藤羊子	長野県信濃美術館主任学芸員
各種団体代表	文化団体	なるさわ すてや 成沢捨也	上田市文化芸術協会会長
		やまうら やまと 山浦大和	上田市文化芸術協会副会長
	整備陳情団体	やまざき ひでき 山崎英樹	信州上田芸術文化会館建設研究市民の会幹事長
		せきぐち のぶお 関口信雄	魅力ある新市民会館等の実現を考える会 発起人代表
		こいけ ひでひこ 小池秀彦	東信中学校吹奏楽連盟理事長
	商工団体	もり よしのり 森 良則	上田商工会議所 副会頭
		てらしま ひでのり 寺島秀則	上田商業21世紀会会長
自治会連合会	おかむら とおる 岡村 徹	上田市自治会連合会前副会長	
地域・市民代表	企業関係代表	たつのあきひろ 龍野彰宏	(株)タツノ 代表取締役社長
	文化関係代表	にしざわまりこ 西澤真理子	ピアニスト
	丸子地域代表	うら よしてる 浦 芳照	
		たけはなけいこ 竹花恵子	
		やまぎしあきこ 山岸晶子	
	真田地域代表	あがわ りみこ 小川理美子	
		からさわ まもる 柄沢 衛	
	武石地域代表	たなか いつよ 田中五代	
きよすみようこ 清住洋子			
さくらい よしえ 桜井美枝			
公 募	たけうちせいこ 竹内聖子		
	みやしたたくみ 宮下倬實		
	みやもとしげゆき 宮本茂幸		

中間報告に対する市民意見の内容と、

(ページ左側) 中間報告の内容

はじめに

今の子どもたちのために、そして未来の子どもたちのために、今、私たちがしてあげられること...子どもたちの健やかな成長と、豊かな心を育てたい。

文化は、すぐに育つものでなく生活の中で生まれ、脈々と育ってきたものであり、生活そのものでもあります。

私たちが日ごろ楽しみ、心を動かされるなどの恩恵を受けております文化についても、祖先が種を蒔き、水をやり、受け継がれてきたものであります。

こうした文化の継承と新たな創造は、それぞれの世代の使命といえます。

まさに、交流・文化施設の建設につきましては、現代に生きるものだけでなく、将来の子孫のための仕事であるということを意識し、歴史ある上田の文化振興・文化力を高める拠点として、子どもたちのためにも役立てていけるよう前向きに取り組むべきであると考えます。

まちの中心部に文化的機能による賑わいと交流をもたらし、まちを、地域を元気にしたい...文化力から人間力、そして地域力へ。

JT開発地は、「広域から人が集まる新たな拠点として、賑わいの創出や健全な市街地形成を目指し、上田市全体の発展につながる新たな中心市街地の活力づくりの核とする」方針で全体利活用が進められており、市でも「当初から財政状況も踏まえ、民間の資本やノウハウを最大限活用した新しいまちづくりへのアプローチとして、民間との協働により活力ある中心市街地の一角を形成すべきと判断し取組んできた」とお聞きしました。

私たちは、JT開発地の新たな利活用が、上田市の顔でもある中心市街地にもう一度人々を呼び戻し、誰もが集まるような、賑わいや活力を取り戻すチャンスがめぐってきたと捉えます。

隣接地には多くの人々が住む住宅地や、広域から大勢の人が訪れるであろう大型商業施設ができます。ここに「多目的ホール」「美術館」「交流施設」などを一体的に考えた総合的な文化力を持つ施設を整備し、JT開発地全体での一体性、総合性を発揮させる複合的都市計画を目指して、人々や賑わいをこの地区内だけに留まらせず、中心市街地全体、そして上田市全体の活力をもたらすところまで利用すべきであると考えます。

現在、世界規模で経済危機、雇用不安が急速に広がり、明日の生活も不透明な状況にあることは事実です。しかしこんな状況の今だからこそ、公共投資が必要であります。また30年、50年先の明るい未来「文化の薫りが漂い、人々の活気と賑わいに満ち溢れているまち」の実現を目指して、施設整備に取り組むべきと考えます。

最終報告に向けての課題等の整理について

(ページ右側)市民意見の内容と今後の課題等

凡例

市民公聴会等で出された意見のうち特に検討が必要と思われる意見
(公): 公聴会での発言 (紙): 公聴会意見用紙記入内容
(パ): パブリックコメントでの意見 (出): 出前講座での意見



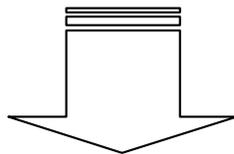
最終報告に向けての課題等

【中間報告の全体についての意見】

- ・ 内容は素晴らしい。順調に進んでほしい。(紙)
- ・ 内容として、文化の意味、人が財産と言う意味で良い。(公)
- ・ 財政面で慎重になっているものの、中身はかなり具体的かつ詳細。(公)
- ・ 第一次総合計画や文化芸術振興に関する基本構想と整合性がある分分かりやすい。(パ)
- ・ 美辞麗句が多く具体的でない。(公)
- ・ メリットだけ書いてあるがデメリットはどうか。(公)
- ・ 中間報告は感動がない。市民が感動せず、参加したいと思わなければ施設は失敗する。(パ)
- ・ 無難にまとまりすぎていて魅力を感じない。中央公民館のような生涯学習を延長しただけの施設、多目的で複合的な施設になりそうで気になる。(パ)
- ・ 建設に反対。(パ3件)

【はじめにに対する意見】

- ・ 合併特例債やJ T開発地がなければ難しいが、今の時代だからこそ交流・文化施設が必要。(紙)
- ・ こんな時代だからこそ、後で市民の皆さんに良かったと思っていただける。(紙)
- ・ 「最少の投資で最大の効果」を基本コンセプトにし、厳しい時こそ積極的に進めるべき。(紙)



中間報告の内容に対しては、全体的に肯定的な意見が多かった。
最終報告のまとめにあたって

- ・ 「理念と目標」...表現の見直し、具体的事例の追加検討など
 - ・ 「整備方針」...具体的意見を踏まえ、施設の概要・面積・配置等を明確にする
 - ・ 「運営管理」...意見等を踏まえ、運営管理の方向性を更に検討する
 - ・ 「建設にあたって」...各施設役割分担と整備事業費の精査
- これらを集約したモデルプラン及びイメージパースの作成

理念と目標

1 基本理念と目標

『人にやさしい 交流の輪が広がる 創造都市うえだ』

の実現を交流・文化施設の基本理念と位置づけ、文化芸術のシンボル拠点として新たな『育成』『鑑賞』『創作』『交流』等の活動が行われ、人が、まちが、豊かに育まれる新上田市を目指すことが重要と考えます。

「人にやさしい」とは、多様な価値観を認め合い、分かち合うことで心の豊かさ・やさしさを育てる、まさに教育面や福祉面にも広がる理念として表現しています。

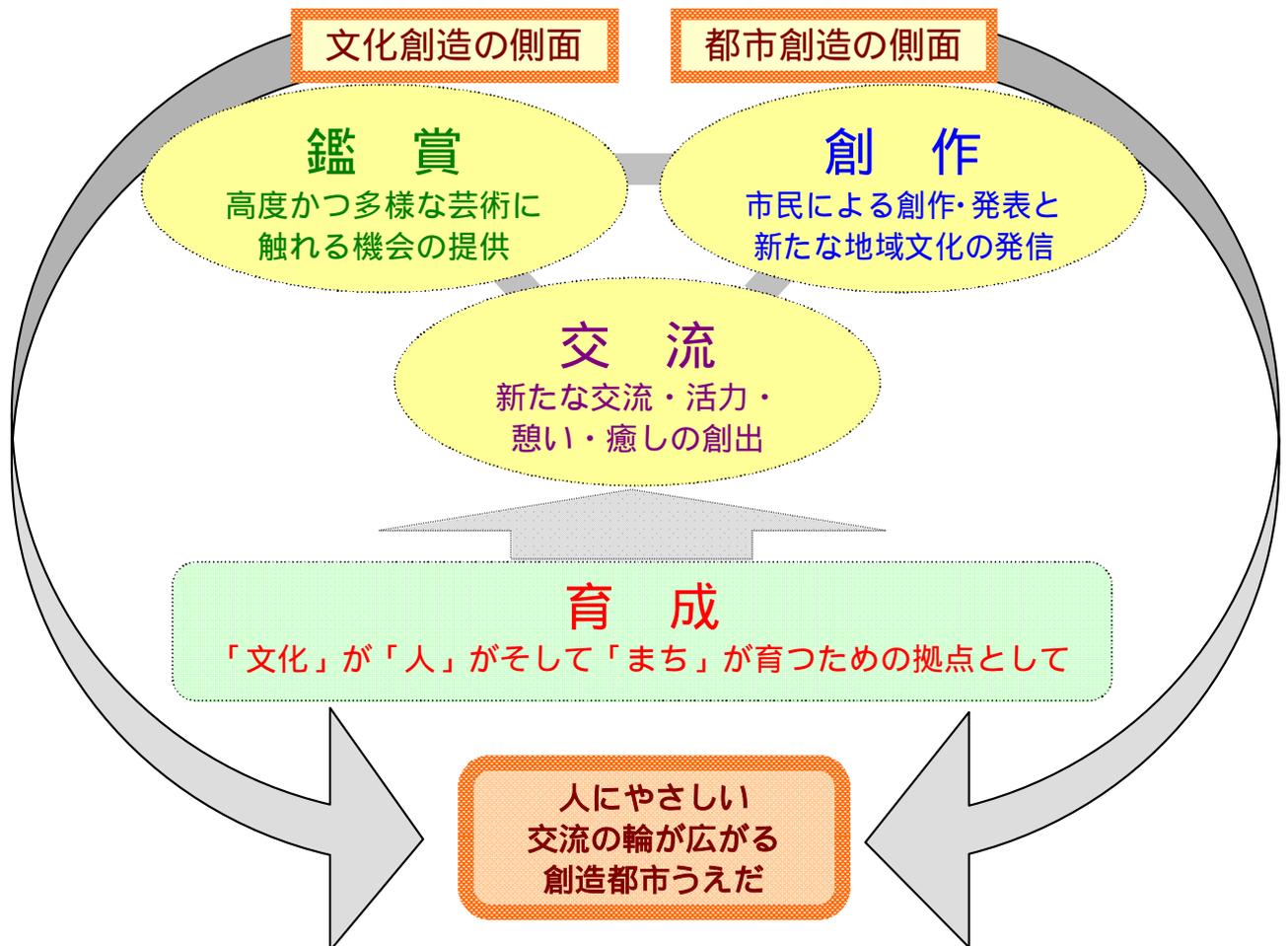
また、基本理念の根底にあるべきものは『育成』であります。

人々の生活とともに悠久の時を経て脈々と流れる「文化」、それが表現された「芸術」、これらが育つことはすなわち「人」が育つということでもあります。とくに次世代を担う子どもたちを、良質な文化的な生活環境の中で心身ともに健やかに育てていく、これは今の私たちが真剣に取り組まなければならないことであると考えます。

そして、「人」が育つということは「まち」が育つことへとつながります。

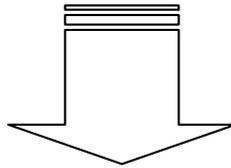
こうした育成の取組みが、市民による歴史ある地域文化を継承することと同時に、新たな文化を創造し、醸成された地域文化を形成するとともに、まちの賑わいや活力を生み出す拠点として、広範な地域から人々が集い・憩い・交流する場となり、魅力溢れるまちづくりへの架け橋となるものと考えております。

図1【交流・文化施設が果たす役割のイメージ】



【基本理念と目標に対する意見】

- ・ 基本理念や方向性は素晴らしく、胸がわくわくするような思いがある。(公)
- ・ 中間報告の高度な理念に心から敬意を表す。(パ)
- ・ 「文化」が「人」がそして「まち」が育つための拠点として、整備方針など全てに感動した。30年、50年先の明るい未来の実現を目指し、多目的ホールなど各施設、また総合的な全体の理念に賛同し、市民としても参画していきたい。(パ)
- ・ 子どもたちの未来のために、と言う理念は良い。(公)
- ・ この理念で進めるべき。(公)
- ・ 「文化力から人間力、そして地域力へ」、久しぶりに力強い言葉を聞きうれしく感じた。(パ)
- ・ 文化を育てると言うが、人が育たないと文化も育たない。(公)
- ・ 理想は市外の人も行ってみたくなる様な上田市の未来を拓く、魅力的な文化施設を整備して欲しい。上田市のシンボルとなり人の流れがここを核にできるような施設となるよう、基本理念も「育成」「ひとにやさしい」などではなく「夢乗せ 交流はぐくむ 文化創造都市うへだ」といった表現はどうか。(パ)



表現、文言の修正箇所の確認
役割のイメージの確認

2 文化創造と都市創造

育成 ~文化の薫り高く、魅力と風格あるまちづくりに向けた 人づくり~
 芸術文化をとおして魅力あるまちづくりを行うためには、次代を担う子ども達を対象にした育成事業に取り組む必要があります。

さらに、文化的土壌の成熟に努め、芸術に親しむ鑑賞者・創作者としての市民、またそれを支える運営者や活動家を育成することも大切であります。

こうした取組みが、市民による歴史ある地域文化を継承することと同時に、新たな文化を創造し、醸成された地域文化を形成していくものと考えます。

【主な事業展開の例】

子どもを育てる文化的環境づくり	未就学児から高校生までが集う演奏会や各種芸術講座、絵画・木彫りのアート教室など、自らが演奏を行ったり作品を制作することを通して、次代を担う子どもたちが芸術や創作に親しむ環境を整える。
各種講座による鑑賞者の育成	クラシックコンサートなどの公演や質の高い美術作品の鑑賞、また参加・体験型の講座の開催等を通じ、市民の芸術鑑賞に対する意識や文化レベルを熟成し、魅力と風格あるまちづくりに努める。
市民とともにある施設づくり	文化活動等のもとより、運営・管理にも多くの市民が積極的にかかわれる環境を整え、市民とともに歩み・育てる施設を目指す。
地域の伝統を生かした創作活動	地域に息づく文化芸術的土壌や郷土作家の顕彰等を通じ、地域文化の継承と新たな文化の創造に努める。

鑑賞 ~芸術とのふれあいから感動が生まれ 豊かな心が育まれます~

広く市内外から人々が集い、音楽や美術作品とのふれあいで心が癒され、わくわくするような感動を提供する施設が望まれています。

また、こうした芸術文化とのふれあいから豊かな心が育まれ、毎日の生活に活気と潤いを与え、魅力あるまち実現へと繋がります。

こうしたことから、施設全体として多様で質の高い芸術に対応できる空間を用意し、市民が様々な芸術文化と触れ合える機会を提供するとともに、市民自らが、様々な形で発表できる場を提供することが必要と考えます。

さらには、郷土の著名な芸術家を顕彰し、市内外に向け積極的に上田の魅力としてアピールすることも大切と考えます。

【主な事業展開の例】

自主文化事業	市民が望む様々なジャンルの芸術鑑賞事業の実施。
貸し館事業	興行等民間利用にも積極的に貸出し、市民の鑑賞機会や財政面での収入を増やし、財政負担の軽減を図る。
市民発表の場	市民が行う文化芸術活動の発表・鑑賞の場（晴れの舞台）を提供。
郷土作家の顕彰	山本鼎、石井鶴三、ハリリー・K・シゲタ、中村直人等郷土作家の顕彰・鑑賞と、その思想を生かした新たな事業展開。 また貴重な作品を将来に伝えるため作品の保管にも努める。

【育成に対する意見】

- ・ 社会教育施設なので、学校教育の練習会場とすべきでない。(紙)
- ・ 初年度は良いが、2年目以降閑古鳥ということが多。文化水準を上げるためにも、5~10年の事業計画を。(公)
- ・ 文化基金を設け、市民音楽祭を開催し、文化力を向上させるべき。(公)
- ・ 勤労青少年ホーム、博物館協議会、地域協議会などと連携する必要がある。(パ)

【鑑賞に対する意見】

- ・ 寄付によるコンサート等を考える。なお、寄付金は市民税の控除対象とする。(公)
- ・ 長野や松本にはNHK交響楽団や小澤征爾が来るが、現市民会館では無理。新施設の早期完成を望む。(公)
- ・ 飯田の音楽祭や松本のSKFのような特色のある事業が必要。(公)
- ・ 上田市は長野市に比べ文化的な催しが少ない。またしっかりしたホールも無いため、この計画も盛り上がり欠けている。今後は、多くの催しが普通と思える環境で生活を送りたい。(出)
- ・ 子どもたちが本物に触れることが大切。(公)
- ・ 山本県の会ではこれまで音楽会や講演会も行い、これらの活動は素晴らしい。是非残すべき。(公) 山本県記念館の活動は大切に残すべき。(紙)
- ・ 神川小には自由画運動の資料室が残っており、県外からを訪れる人もいる。このことを大事にすべき。(公)
- ・ 石井鶴三の力で県展が始まった。鶴三に教わった人も多いが高齢化している。上田にも作品があるため市民に公開すべき。(公)
- ・ 郷土作家作品の屋外展示も必要。(パ)

創作 ~誰もが・等しく・自由に 感動や喜びを広げる創作体験~

より多くの市民が音楽・美術等様々な文化芸術に親しみ、一人ひとりの生活を豊かなものにしていただけるよう、創作・体験機会の創出、環境づくりに努めるとともに、市民の様々な文化芸術活動を支え、対応できる施設整備が望まれています。

とくに子どもたちや障がいをお持ちの方も、誰もが等しく文化芸術活動に親しみ、表現・発表できるよう、施設・運営両面から積極的に対応する必要がありますと考えます。

【主な事業展開の例】

誰もが・等しく・自由に、創作活動支援	とくに障がい者や子どもたちが芸術活動に親しむ場・仕組みづくりを進め、地域での芸術を通じた関わりの機会を提供するとともに、芸術と福祉の融合、ひいては市民全般にわたる芸術活動を支援する。
魅力ある企画展や市民体験型事業の開催	郷土作家に関連したテーマ、キーワードを設定した企画展示や現代作家による企画展示等の開催、また展示と併せたワークショップ、各種体験・参加型事業などにより市民の創作意欲や創造性を高める。
全国に広げるコンクール	山本鼎版画大賞展などの全国公募展の開催や、新たな全国規模コンクールの実施により、上田市の文化・風土を発信し、新たな地域振興や観光などと連携した波及効果を広げる。

交流 ~様々な交流により 新たな出会いと創造が始まります~

市民同士の出会いからジャンルを越えた交流、そして国際的な交流にいたるまで、様々な交流を深めていくなかで、地域文化は育まれます。このため、外国籍市民を含むすべての市民それぞれがお互いを尊重し、同時に相互に啓発し合いながら、それぞれの活動を高めていくことができる機会と空間を提供する必要があります。

また交流は、まちづくりや地域活力の面でも重要な要素であるため、こうした角度からも地域内外との積極的な交流を目指して取り組むべきと考えます。

【主な事業展開の例】

市民の多様な交流の実現	世代・地域・ジャンル等を越えた様々な交流により相互の理解を深め、新たな文化創造や地域づくり、産業振興等に向けた契機にする。
市民憩いの場の創出	広場と合わせ、誰もが気軽に訪れ、楽しみ、憩えるような施設とし、ふれあいや語らいの場など自由な交流機会を広げる。
コンベンションの利用促進	各種会議・大会などのコンベンション利用にも対応することにより、文化面だけでなく、社会・経済面等への波及効果も期待できる。
大学等での芸術活動支援	大学等の芸術活動における利用、発表の機会を提供することなどにより子どもや市民との交流を促し、地域の文化的土壌を醸成する。
地域の文化芸術振興の拠点	普段訪れることのできない市民への出張公演や出前講座等の活動により、誰にでも心のやすらぎや楽しいひとときの場を提供する。

【創作に対する意見】

- ・ 体験型の学習が出来るように。(公)
- ・ 子どもたちがワークショップなど創作・体験・発表できる施設にすべき。(公)
- ・ 美術館は子どもの創作の場として考える。山本県がやっていたことをもう一度やるべき。やさしい子どもになるには感動が必要。(公)
- ・ 子どもの作品を展示すれば、その家族が集まってくる。(公)
- ・ 「創作」には、小説や文芸を含めるかの検討のほか、全国公募展等への企業スポンサー募集も必要となる。(パ)

【交流に対する意見】

- ・ 観光、コンベンション等外部からの流入も重要。(紙)
- ・ 子どもを育てることは大事だが、子どもは市外に出て行ってしまふ。外部から人が来てもらうために観光コンベンションといった視点も必要。(公)
- ・ 収容人数の多い施設を。全国規模の大会や集会を。宿泊が伴えば経済的にも潤う。(出)
- ・ イベント業者やマスコミの活用・連携が必要。また高齢者福祉施設との交流も検討すべき。(パ)

交流・文化施設の整備方針

1 施設整備の方向性

整備にあたっての方向性としては、次の5項目を提案します。

- (1) 「歴史や伝統に学ぶ文化の薫るまち」実現に向けての中核となる施設
豊かな自然や風土によって育まれる地域文化と、先人の築いた歴史的・文化的遺産を保存・発信する、文化の薫るまちづくりの拠点となる。
- (2) 市民誰もが等しく気軽に利用でき、親しみ、憩える施設
子どもからお年寄り、また、障がい者など、市民誰もが訪れる緑地や広場、また芸術に気軽に触れられる空間を創出し、心が癒され豊かになる。
- (3) 新たな交流や賑わいを創出し、地域の活性化につながる施設
市民間、世代間、地域間での交流はもとより、文化芸術が教育や福祉と連携することで新たな交流や賑わいを創出し、地域全体の活性化につながる。
- (4) 環境、景観、安全等に配慮した、人にも地球にも優しい施設
効率的な資源利用、太陽光発電等による省エネルギー、上田の景観を引き立たせるデザイン、災害時の対応等安全性にも配慮し、人にも地球にも優しい。
- (5) 新上田市、東信濃地域に広がる文化圏のシンボルとなる施設
様々な文化芸術事業と、市民の文化芸術活動支援を行うことで、市民が誇りに思い、愛され、上田市のみならず東信濃地域全域から人々が集まる。

交流・文化施設の整備地区は、『多目的ホール(大・小)』、『美術館』、『交流施設』、『市民緑地・広場』をもって構成されますが、これらを一体的、総合的にとらえ、施設全体を連携させた配置とし、複合的な機能をもたせることが肝要と考えます。これにより相乗効果を生み、全国にも発信できる施設とすることが出来ると考えます。

また、JT 開発地内の大型商業施設などや周辺地区との人の流れ、まちのつながりを総合的に計画していく必要があります。そして中心市街地全体も含めた広い視野に立ち、回遊性確保を図っていく必要があります。

そのためには、人々が車から降りて歩いてみたくなるようなまちづくりの設計や誘導策が不可欠であります。快適で安全な歩行空間の整備や、公共交通機関の導入など、今後検討していく必要があります。

こうしたまちを実現するには、周辺地区も含め総合的にとらえ、全体を見通した優れたデザインが鍵となります。利用者や使用者に配慮したユニバーサルデザイン^{注)}に基づく設計、シンプルで機能的なデザインを基本としながらも、文化施設には非日常的な空間の演出、ドラマチックな展開や感動を予感させる演出をもたらずデザインも重要であると考えます。誰もが訪れてみたくなる施設となるよう、デザイン面の格別の配慮を実現すべきと考えます。

注)ユニバーサルデザイン...バリアフリー概念の発展形。デザイン対象を障がい者に限定せず、できるだけ多くの人々が利用可能であるようなデザインにすることを基本とする。

【施設整備の方向性に対する意見】

- ・ 施設整備の方向性は誠に妥当(パ)このような施設をかねてから願っていた。感無量。(公)
- ・ 現在上田は通過点になっているが、今後は勉強、鑑賞、観光が出来る。(公)
- ・ 松本は文化の町という印象。上田にも松本のような施設が絶対必要。(紙)
- ・ 長野市や松本市に勝るとも劣らぬ交流・文化施設の建設を望む。(紙・パ)
- ・ 質の高い文化施設は絶対必要。市民に質の高い文化を提供する一流の施設に。(公・紙・出)
- ・ 小さくても内容が良ければ人は集まる。大きくても人が集まらなければ意味がない。(公)
- ・ 現市民会館の利用状況から考え、身の丈にあった施設とすべき。(紙)
- ・ 「身の丈に合った施設」という意見もあるが、150億円ではホールと美術館の機能を持たせた大施設は不可能。理想は市外の人も行きたくなる様な、市の未来を拓く魅力的な文化施設。駅に近いこの場所では1,500席以上のコンサートホールのみで、市のシンボル、人の流れの核になるような施設とし、美術館は自然に恵まれた場所に整備したらどうか。(パ)
- ・ 上田市のシンボルとして50年以上利用できる施設を作るべき。(パ)
- ・ 大きなイベントが出来る施設とすべき。(紙)
- ・ 皆が楽しめる施設とすべき。(紙)
- ・ 子どもや高齢者の利用に十分配慮すべき。(公2件、紙)
- ・ スロープの設置等、のバリアフリー化を徹底すべき。(公・紙・出2件・パ)
- ・ 買い物の帰りに立ち寄れるような、身近な施設とすべき。(紙2件)
- ・ 丸子地域からは遠いイメージ。遠くても行きたくなる様な施設に。(紙)
- ・ 毎日、何かイベントや行事が行われることが必要。(紙)
- ・ 太陽光発電や雨水利用など、エコに配慮した施設とすべき。(紙3件)
- ・ 外観より機能を重視し、ランニングコストを抑える。(公・紙2件・パ)
- ・ 防犯カメラの設置や駐車場を明るくするなど、施設外のことにも留意を。(出)
- ・ 所属の合唱団は佐久穂町から坂城町まで加入者がいる。東信の中核になってほしい。(公)
- ・ ホール、美術館は市にとって必要な施設。良い施設を。(公2件・紙)
- ・ 小規模の文化グループが気軽に発表できるスペースも必要と思う。(パ)
- ・ 県内で、何か1つだけでも、上田にしかない機能があれば市外の人を使う。(出)
- ・ 蚕都として、養蚕に関する資料や物品等を公開する博物館を設けるべき。(公・紙2件)
- ・ 全体事業費から考えると美術館は不要。(紙)
- ・ シネコン、公設の映画館も是非お願いしたい。(出)



環境・エコ配慮に対する記述・・・JT開発地全体の基本コンセプト
蚕都(産業遺産)、シネコン等、他機能の取り込みに対する考え方

2 多目的ホール

2 - 1 大ホール

市民の鑑賞の機会の拡充を図り、質の高い文化を享受・発信できる、東信濃地域全体の文化芸術活動の中心拠点としての施設とすることが望ましいと考えます。

一方、コスト面・運営面等を慎重に考慮すると、過大な規模のものにならないよう、長野・松本等のホールとの機能分担を図りながら、1,500席から1,700席程度の規模が適当と考えます。

利用形態は、公共ホールとして様々な利用要望に応えるために多目的ホールとし、市民ニーズ等を考慮し、音響性能をはじめ必要とされる性能・機能を満たしつつ、興行にも対応可能な施設とすべきです。また、客席は、ゆとりのある座席配置にするとともに、出演者と観客が一体感、親近感、臨場感を持てるよう配慮すべきでしょう。

なお、多様な規模・内容の公演等に対応し稼働率も上がるよう、席数可変装置の導入については、費用対効果等を含め今後さらに検討が必要^{注)}と考えます。

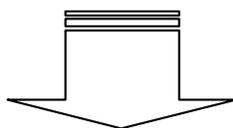
舞台は現上田市民会館と同様の「プロセニアム形式^{注)}」とし、多目的な利用に対応するとともに、舞台裏も含めて必要な諸設備を整え、出演者が利用しやすい快適な諸室環境を確保すべきと考えます。

さらに、立地環境を活かし、人々に癒しや安らぎを感じていただくため、ホワイエなどは千曲川の景観・眺望に配慮した設計とすることが望ましいと考えます。

注)「プロセニアム形式」...舞台と客席がプロセニアム(額縁)によって明確に区分されている形式

【大ホールに対する意見】

- ・ 「上田市には立派な大ホールと素晴らしい小ホールがある」との評判が立つような素敵な市民会館を造って欲しい。(パ)
- ・ 上田は吹奏楽や合唱などが盛ん。財政面ばかりを気にして、学校の大会もできないような中途半端なものにならないように。(公)
- ・ 音響設備の充実を最大に考え、演奏しやすい舞台の設計を希望する。(パ・出)
- ・ ホール等の採光、照明、音響は出来る限り最高の機器を使用すべき。(パ)
- ・ 大ホールはオーケストラが演奏したくなるような1500席とすべき。(紙2件・パ・出)
- ・ 大ホールは、多くの利用を見込んで、1500よりは1700席に近づけるべき。(公)
- ・ 大ホールは1700席以上を望む。(紙)
- ・ 大ホールは一流の公演が呼べるよう、また人口規模から1800席以上。(紙・パ)
- ・ 大ホールは商業ベースで考えると、県民文化会館レベルの2000席が必要。(紙2件)
- ・ 現市民会館の利用状況を踏まえ、必要最小限の機能的な施設とすべき。(公・紙2件・パ)
- ・ 座席は、通路も含め、余裕を持った設計とすべき。(公・紙・出)
- ・ 障がい者の鑑賞に配慮した座席を望む。(紙)
- ・ 客席には、プログラム等の資料を置けるようにすべき。(紙)
- ・ 音楽ホールと演劇ホールは全く構造が違うが、多目的は止むを得ない。(公)
- ・ 多目的ホールは便利なようだが、実際にはどの用途にも中途半端な無目的ホールとなってしまう。用途、目的を明確にした整備計画が必要。(公・出・パ)
- ・ 楽屋は大中小できるだけ多くし、動線や設備に十分配慮すべき。(パ6件)
- ・ 大道具等の搬入などのためにも、舞台周辺のスペースを十分に確保すべき。(パ3件)
- ・ 大小ホールは舞台を近づけ同じ高さにし、楽器庫・倉庫は両舞台の間に配置すると便利。備品も節約できる。(紙・出)
- ・ 古典芸能の公演に配慮した舞台設備、所作台や花道、せり等を希望。(出4件・パ2件)
- ・ 舞台は現市民会館の2倍、幕も2幕以上必要。(パ)
- ・ ホールは豪華でなく、何か県下でここにしかない設備を持たせるべき。(パ)
- ・ 催しの内容を映すモニターをホワイエに設置してほしい。(出)



大ホールの規模(座席数)

客席の形状・構造(扇形・馬蹄形・シューボックス、階数、バルコニー・・・)

利用形態の確認(多目的ホールでよいか)

古典芸能への対応について(舞台設備、花道、せり)

席数可変装置の導入の有無

2 - 2 小ホール

小ホールは、主に市民が日ごろ行っている様々な文化芸術活動を表現・発表する場として、気軽に利用できるような規模や機能に配慮した施設とすることが望ましいと考えます。

市民誰もが気軽に利用できる常に人々が集まるホールとすることで、豊かで潤いのある日常生活の実現とともに、中心市街地内の賑わいの創出に寄与する施設となります。

平土間の箱型形状とし、多様な利用が可能なマルチスペースとします。

客席数は、市民が気軽に利用できかつ既存ホールは中規模なものが多いことなどから、200～300席程度の小規模なホールが望ましいと考えます。

【小ホールに対する意見】

- ・ 小ホールも照明、音響、舞台装置、固定座席などを充実させてほしい。(公3件・紙4件・パ9件・出3件)

挙げられている理由

東信地域のシンボルとしてアピールでき上田市の売りにもなること

合唱団体等の様々な団体が望んでいること

市内の小ホールの稼働率が非常に高いため更に多くの利用が期待できること

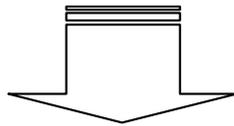
市民の文化発表の機会が格段に増えること

地域の文化育成につながること

次代の子ども達を育てる場となること

平土間形状は中途半端で使いにくく市内に同様のホールも多いこと

- ・ 小ホールは大賀ホールのような、親しみやすく、音響も素晴らしいホールにすべき。(出)
- ・ 小ホールの規模は250～300席のホールが市民は使いやすいと思う。(パ)
- ・ 小ホールは300～500席程度が利用しやすいと思う。(パ・紙)
- ・ 小ホールは500席程度を希望する。(出2件)
- ・ 500～1,000席程度の中規模ホールを望む。(パ4件、出3件)
- ・ 小ホールの整備については再検討すべき。(紙)



小ホールの位置付け、機能・構造(市民意見を踏まえた再検討)
規模(座席数)

3 美術館

美術館として、「展示室」、「市民ギャラリー」、「アトリエ」、「収蔵庫」等を整備すべきと考えます。

「展示室」は上田ゆかりの芸術家を顕彰するなどの常設展示と、様々な内容を持った企画展示を想定、なお県展等の大規模展覧会への対応も踏まえ、展示室全体を一体利用できるよう配置等考慮します。

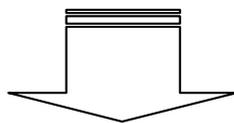
「市民ギャラリー」は市民誰もが気軽に日頃の活動の成果を発表できる場とし、「アトリエ」は市民誰もが文化芸術と触れ合い、地域の文化力の向上につながるさまざまなワークショップ^{注)}の場とします。

貴重な芸術作品を良質な状態で後世へと引き継ぎ、市民財産を保全していくため、適切な「収蔵庫」を整備して保管すべきであります。

注) ワークショップ...座学とは異なり、参加者による実習や体験を軸にした学習形式

【美術館に対する意見】

- ・ 先進的な美術館とすべき。(紙)
- ・ 東信濃の文化発信地として、子ども達が何度も足を運びたいような企画展を望む。(紙)
- ・ 子ども達が利用しやすいよう配慮し、明るく、光がたくさん差し込む美術館を望む。(紙)
- ・ 子どもでも生の作品の素晴らしさはわかる。子どもが行きたくならないような美術館にすべき。(公)
- ・ 美術館は地元出身の美術家がそれほどいないのには是非必要とは思わない。上田城の集客のためにも、石井鶴三、山本鼎記念館を修する程度とすべき。(紙)
- ・ ホールの付属施設というような位置づけにならないように。(紙)
- ・ 是非魅力のある美術館を。市民の公募作品を展示し、有名作家の企画展も行うべき。(紙)
- ・ 生花の展示会でも大きなスペースが必要、美術館や交流施設の使用に配慮を。(出)
- ・ 美術館は核となる世界的名画がなければ経営は難しく、ランニングコストを考えれば必要性を欠く。展示は創造館や空き店舗などを活用すべき。(紙)
- ・ 大規模な展覧会も可能なものにすべき。(公)
- ・ 世界的名画を購入、展示すべき。絵の選定は市民が行う。(公)
- ・ 絵画は買わなくても国宝級のものを借りることも出来るが、学芸員の力が重要。(公)
- ・ 美術館は展示作品が重要。美ヶ原高原美術館や他の美術館との連携も必要。(公)
- ・ 美術館は東京などから特別展示の会場となるようにすべき。(紙)
- ・ 美術館は1回観れば十分となる。子どもからお年寄りまで何度も観たいと思わせる内容にすべき。(公)
- ・ 市民が公募展に出品し、それを鑑賞できる展示室を。(紙)
- ・ 豊かな心の育成をめざし、子ども達が創作体験できるワークスペースが必要。(紙)
- ・ 美術館には、水道設備を持った、汚れてもよい創作部屋が必要。(紙)
- ・ 収蔵庫は出来てから使えるまでに湿気などの問題で1年程空ける必要がある。それを踏まえた整備計画を。(公)
- ・ 美術館は入りやすい雰囲気作りに配慮すべき。(紙)
- ・ 美術館はデザインを優先すると鑑賞などの機能面で障害が出る可能性がある。(公)
- ・ 原田泰治美術館のように展示高さを調整して子どもや障がい者の鑑賞に配慮すべき。(公)
- ・ 美術館の照明設備は十分な機能を持たせるべき。(紙)
- ・ 郷土の歴史的文化人のコーナーを設置すべき。(紙)
- ・ 山極勝三郎、赤松小三郎等、子ども達も容易に理解できる常設展示が必要。観光客にも見てもらえるように。(紙)



市民意見を踏まえた美術館機能の位置付け、ありかた、規模・機能等の再確認

4 交流施設

交流機能の施設として、「交流・会議室」、「リハーサル室」、「練習室」、「ボランティアルーム」、「エントランス」等を整備すべきと考えます。

「リハーサル室」、「練習室」等は、ホールの付帯施設としての側面もありますが、市民の主体的な文化芸術活動を支える拠点ともなります。

「交流・会議室」は、文化活動に限らず広く市民が自由に利用できる多目的なスペースとし、「ボランティアルーム」は、市民とともに歩み・育てる拠点として必要と考えます。

また、子育て中の保護者が、安心して鑑賞できる機会をふやすためのサポート施設（キッズルーム）を、管理部門に設置します。

明るく開放的な「エントランス」ホールを設け、訪れた人々がゆったりとした憩いのひと時を過ごせるよう配慮するとともに、市民緑地・広場などとも連携した交流と賑わいの空間として整備すべきと考えます。

なお、喫茶・売店等、つまり文化施設におけるミュージアムショップやレストラン・カフェは、単なる商業系施設ではなく、交流・文化施設の一端を担う機能、また教育的機能としての一面も持つ施設といえます。したがってこれらの設置については、市民・利用者のニーズや採算面等の他に、こうした機能面でのあり方、位置付け等も踏まえ、さらに検討する必要があると考えます。

5 市民緑地・広場

ホール、美術館等の建物の周りには、交流・文化施設全体の連続性や環境・景観に配慮した人々の"癒し"につながる「芝生広場」と、人々の"賑わい"につながる「交流広場」を中心に、市民緑地・広場を整備すべきと考えます。

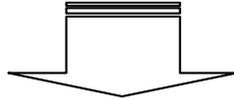
「芝生広場」は 8,000 m²程度の広さを持つ開放的な空間とし、「交流広場」は、JT開発地に集う人々が、賑わいと活力を生み出し、中心市街地全体へと回遊・連携させていくための空間としての整備が望ましいと考えます。

さらに、親水的な空間、子どもが遊べる空間、美術作品の展示も含めた芸術空間等の整備については今後検討する必要があります。

また、上田城や千曲川との連続性を意識し千曲川堤防沿いには桜並木の整備が考えられます。

【交流施設に対する意見】

- ・ 茶道用の和室の設置を希望する。(出2件)
- ・ 軽音楽の練習場所を。(出)
- ・ リハーサル室、練習室は必ず設置して欲しい。(パ)
- ・ 大・中・小の会議室が必要。(パ)
- ・ 色々に使える平土間のホールは、結局何に対しても使い勝手の悪いものとなり、このようなホールは既に市内に多数ある。交流・文化施設に必要な機能としてこだわるなら、展示室やホワイエを柔軟に利用するよう考えればよい。(パ)



小ホールのあり方を踏まえた、規模・機能等の再確認
喫茶・売店等機能の設置について

【市民緑地・広場に対する意見】

- ・ 桜や欒などを植えた公園を。ここに暮らす人が楽しめることを考えてほしい。(出)
- ・ 真田氏の野外彫刻などを展示すべき。(公)
- ・ 郷土作家作品の屋外展示も検討が必要。(パ)
- ・ 旭山動物園の日本ざるのおりを持ってくる。(紙)

6 施設全体のイメージ

(1) 施設構成・規模等

交流・文化施設全体の構成と規模などをまとめると、表1のとおりとなります。

表1【施設の構成と規模など】

建物	敷地面積 約 15,000m ² 延床面積 約 16,000m ²	
多目的ホール	・大ホール(1,500~1,700席) ・小ホール(200~300席) ・スタッフルーム、楽屋(大中小) ・ピアノ庫、倉庫等 ・ホワイエ、クローク、ロビー等	約 8,500m ²
美術館	・展示室(常設展示・企画展示) ・市民ギャラリー ・アトリエ ・収蔵庫、管理研究関係室	約 2,500m ²
交流施設	・リハーサル室、練習室 ・交流室、会議室 ・ボランティアルーム ・共通エントランス	約 2,000m ²
管理部門	・託児サポート施設 ・事務室、総合案内、救護室等 ・廊下、階段、機械室等	約 3,000m ²
市民緑地・広場	・芝生広場、交流広場 ・桜並木、親水空間、遊具等	約 18,000m ²
駐車場()	・普通車約 400台 ・大型車(必要台数分)	約 12,000m ²
公共利用全体	全体敷地面積 約 45,000m ²	

駐車場の整備についての留意点は以下のとおりと考えます。

交流・文化施設利用者用の駐車場としての規模

最大利用を1,600人と想定し、うち5割が車を利用し、一台あたり2名乗車で来館すると、 $[1,600 \times 0.5 \div 2 = 400]$ 400台程度は必要となります。

上田城跡公園等への観光客用駐車場

上田城跡公園から至近距離に位置することも踏まえ、公園下既存駐車場等との機能分担・位置付けを検討すべきと考えます。

市街地回遊の拠点となるパーク&ライド用駐車場

コンパクトシティの実現、環境にやさしいまちづくり等長期的な視野に立った中心市街地のあり方の中で検討する必要があります。

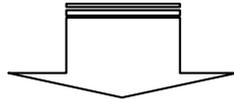
機能面・景観面等に配慮した配置計画

各施設へのアクセス、周辺環境との調和や景観面への配慮等から、位置・形状・また構造等について検討していく必要があります。

【施設構成・規模等に対する意見】

- ・ 規模を決めるためには現在の利用状況が重要だが、そのデータが示されていない。(公)
- ・ 子どもたちにとって負の遺産とならないように、既存施設の利用を検討しながら適切な規模とすべき。(紙)

- ・ 駐車場 400 台は催しが重なったとき足りない。(公・紙)
- ・ 駐車場は最低でもキャパシティの半分は必要。複合施設なのでそれ以上必要。(紙)
- ・ 駐車場も是非増やしてほしい。(紙)
- ・ 地下は駐車場にすべき。(紙)
- ・ 現市民会館を開館以来利用してきているが、20 年位前から駐車場不足でお客様に不便をかけたながら利用してきたので、今回の新しいホールの建設を大変うれしく感じている。(パ)



施設想定面積の精査

留意点及び市民意見を踏まえた、駐車場必要台数の再検討

(2) 施設配置イメージ

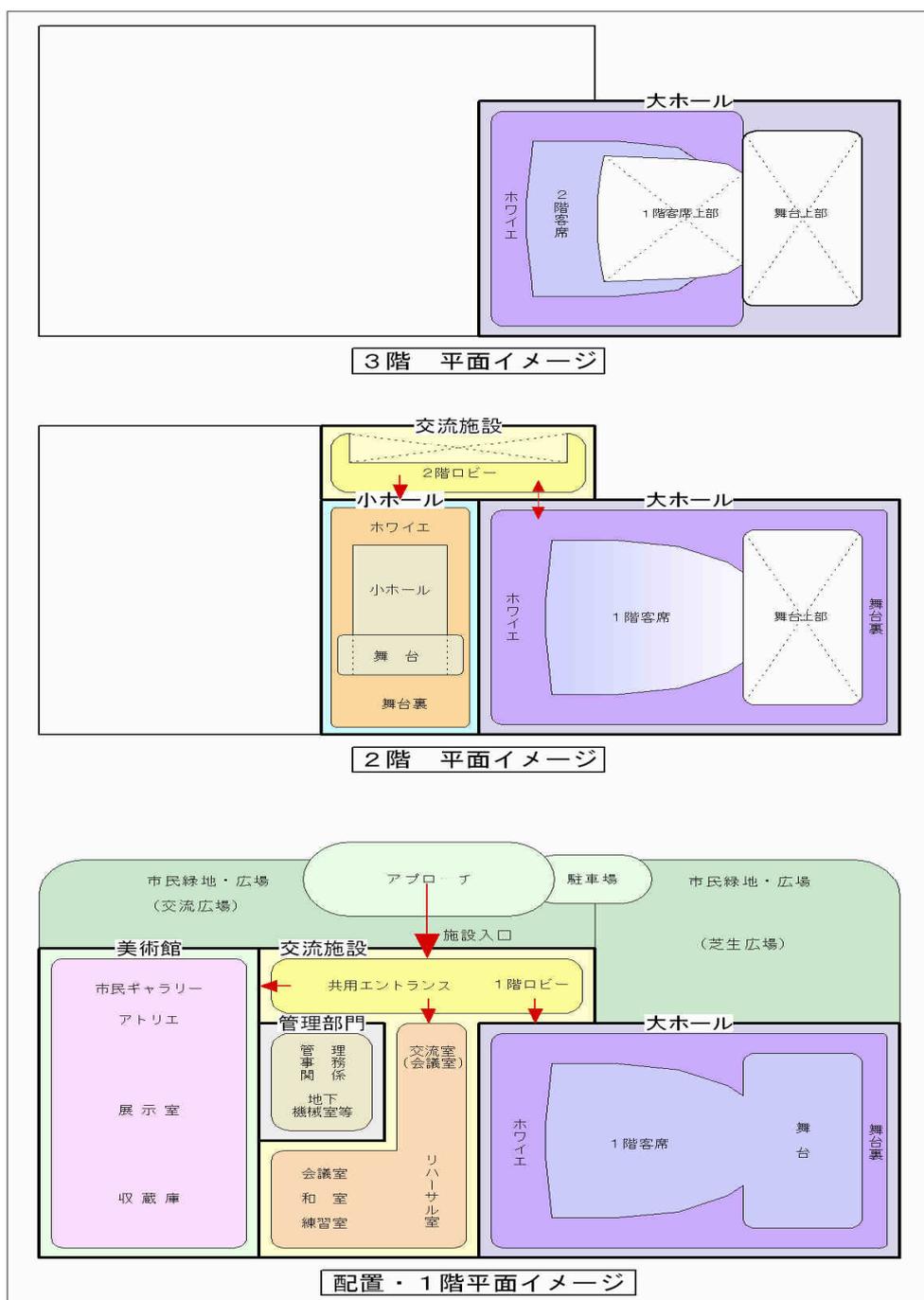
図2は各施設のつながりのイメージを表現した一例です。

なお整備予定地（J T開発地）の概要については、[付属資料](#)に掲載してあります。

施設配置の基本的な考え方は以下のとおりです。

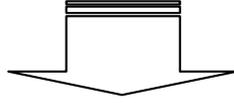
共用・集約化により全体面積の圧縮に努め建設費・維持管理費の節減を図る。
各施設は共用エントランスを中心に配置し全体の一体感と利便性に配慮する。
各施設の運営・管理上の独立性は確保した配置とする。

図2 【施設配置イメージ（例）】



【施設配置イメージに対する意見】

- ・ 景観的にホールと美術館は独立させるべき。美術館には印象に残る美しさが必要。建物と屋外彫刻などが一体となり、子ども達の印象に残るものとすべき。(公)
- ・ 美術館は別館としてほしい。(出)



美術館の配置（合築・別棟）

施設全体の配置イメージ（モデルプラン）の検討

運営・管理の方向性

1 エリア・マネジメント

運営・管理の前提は、「理念と目標」で掲げた内容を、交流・文化施設全体を通じていかに実現していくかにあります。施設にはホール・美術館・交流施設・広場等それぞれの目的・機能がありますが、全体を一体のものとして捉え、連携させた配置・機能を持たせることにより、最大化、効率化、そして市民への説明責任を果たせる運営・管理をすべきであります。

また、こうした運営・管理により、所期の目的を実現するだけでなく、全国に向けても施設の存在自体を発信できることにもつながると考えます。

さらには、住宅地区、商業地区等施設周辺との連携、そして中心市街地全体も含めた広い視野に立ち、人の流れ、まちのつながりを総合的に考慮していく必要があります。それによって、人や賑わいをこの地域内だけに留まらず、中心市街地全体、そして上田市全体の活力をもたらすことにつなげていく可能性を引き出すことが出来るように考えられます。

このためには、地区全体を過去の維持運営の方式に縛られるのではなく、事業者、施設管理者、行政、市民、NPO法人などが共同して、施設や建物の管理だけではなく、イベントの企画などにより街の賑わいを演出していくような、エリア・マネジメントの手法をとりいれて、積極的に活力を持続させていかなければならないと考えます。

2 施設の運営・管理

(1) 運営のマネジメント能力

施設整備後の運営にあたっては、施設整備段階から市民とともに施設を創り、育てていく新たなしくみづくりを構築するべきです。早い段階から、舞台芸術に関する高度な専門性を備えた人材を確保するなどの新たな運営体制づくりを検討・準備していく必要があります。

これらを通じて、公共建造物ではあっても官の運営・管理にするのではなく、民間の活力を導入して、効率性と魅力を高める必要があると考えます。

(2) 手法の検討

「指定管理者制度」など、様々な民間活力の方策の導入を図って民営化を進めていく必要があります。

(3) 運営・管理の財源確保・資金調達にあたって

運営財源の確保等財政運営的な面からは、次の点に留意すべきと考えます。

市民の理解に基づく行政の長期的な事業運営経費、維持補修経費の確保

企業メセナ^{注)}の活用

適切かつ公平な利用料金、減免基準の設定

効率的かつ効果的な自主事業の実施と市民活動への助成・支援

特徴ある施設づくりと運営手法

注) 企業メセナ...企業が資金等を提供して文化、芸術活動を支援すること。企業財団を通じた助成や、企業が主催するコンサート等各種の公演・イベントを含める場合もある。

【エリア・マネジメントに対する意見】

- ・ 商業と文化のまとまり、中心市街地の活性化につながる開発を期待している。(出)
- ・ 中心市街地(商店街)との交流が重要。
- ・ 上田城公園からJT開発地への歩道が必要。それぞれの点と点を結ぶような、全体を見据えた計画とすべき。(公)
- ・ 上田駅から文化施設への直接アクセスが必要。(公2件)
- ・ 中心市街地活性化のため、また子どもや高齢者の利用のため、例えばイオンの循環バスのような案も必要。(公)
- ・ シャトルバスを用いてほしい。(出)
- ・ 「広域から人が集まる新たな拠点」として、上田駅と連絡する新駅、観光駐車場との連絡路を整備すべき。(パ)
- ・ 新施設と市街地の施設・観光名所を結び、「ポストンフリーダムトレイル」のような観光ループ舗道を真田紐のデザインで整備することを提案する。
- ・ この施設を、まちの賑わいや地域の活力を生み出す拠点とするには、上田駅とJT開発地のアクセスが非常に重要。上田駅とJT開発地を「地下商店街」「専用モノレール」「ムービングウォーク」などで結ぶことや、「新駅」設置等の検討を提案する。(パ)
- ・ 上田駅は新幹線利用のツアーのバス乗換地として有利なため、観光バスターミナルを併設すべき。循環バスや市内回遊ミニツアーを企画する。全国からの訪問者に上田ならではの魅力を広く理解してもらい、何度も訪れてもらうようにする。(パ)



JT開発地全体の中での位置付け、連携・回遊策の方向性検討
中心市街地全体の中での位置付け、連携・回遊策の方向性検討

【施設の・運営・管理に対する意見】

- ・ 企画力の優れた文化的素養を持った人材を確保すべき。(紙)
- ・ 施設の設計から運営まで、やる気、企画力、専門性のある若者を公募すべき。(紙)
- ・ 施設では、市民有志、ボランティア、NPO等が参加できる仕組みを構築すべき。(公3件)
- ・ ボランティア団体の育成や研修などを多く取り入れてほしい。(出)
- ・ 箱物行政とならないように、スタッフにお金をかけるべき。(公)
- ・ 学芸員は初めから参加させ専門職として配置すべき。(公)
- ・ 学芸員や館長は極めて重要。(公)
- ・ 外国人の方の力も活用すべき。(出)
- ・ 特殊技術を持った人々の技術を定年後にも活用できる施設を。(紙)
- ・ 教育面・福祉面にも広がる理念を軌道に乗せるため、高齢者の力・財力を活用すべき。(パ)
- ・ 会場費は、文化団体の定期演奏会などの場合は減免すべき。(出) 立派な施設であっても利用がなければ意味がない。文化団体への利用料金面での配慮を。(出)
- ・ 新ホールにおいても市内小中学校の使用料は100%減免すべき。(紙)
- ・ 市民が文化活動で利用する際、誰でも無理のない使用料で使えるよう配慮して欲しい。(パ)
- ・ 文化協会加入団体の使用料無料はおかしい。利用していない人に負担をかけている。有料にすれば意識も変わる。(紙) 受益者負担を徹底すべき。(紙)
- ・ 1団体に使用が集中しないように、使用申込方法を工夫すべき。(紙)
- ・ 建物だけでなく、市民が利用しやすい仕組み作りが必要。(紙)

(4) 運営・管理経費について

施設整備にあたっては、上田市にとって真に必要な施設の規模や機能のほかに、運営・管理のあり方、財政面での見通しなども重要な判断要素となっておりま

す。もちろん、文化の振興、そして人を、まちを育てていくことは単なるお金の問題ではありませんが、市民全体で認識を共有し、この施設が将来にわたりその機能を維持し、冒頭に掲げた基本理念・目標を実現していくためには、適切な運営と管理のための経費をきちんと見定めながら、計画を進めていく必要があります。

しかし、こうした経費は、事業内容、建物の構造・規模・舞台装置等設備関係の状況により大きく変わってしまうことから、現時点では具体的数字はつかめません。

そこで、当面はこれまで調査した他施設の例(表2参照)をもとに維持管理費及び人件費について平均値を算出し目安とすることとします。具体的には維持管理費のみで年間15,000円/㎡程度、人件費を含めると22,000円/㎡程度と見込まれます。

また、施設の大規模改修、舞台・音響等設備関係の更新費用も将来的に必要となりますので、こうした面への財政負担等も考慮した準備が必要です。

表2【他施設における管理経費の事例】

事例	建設年	延べ床面積 (㎡)	客席数 (席)	維持管理費 (円/㎡)	人件費 (円/㎡)
A	H16	19,184	1,800	16,136	7,932
B	H15	15,093	1,425	12,759	6,756
C	H15	19,400	1,269	34,064	12,508
D	H8	17,230	1,376	12,967	2,414
E	H5	21,510	1,500	9,642	6,509
F	H2	22,238	1,790	12,212	3,430
G	H1	8,880	1,452	9,687	7,171
平均値		17,648	1,516	15,352	6,674

注)・数字が公表されていない施設もあるため、施設名は省略します。

- ・全国の平成以降に建設された1,200~1,800席規模の大ホールを持つ施設から抽出しています。
- ・経費は施設全体にかかる金額のため、建設年、大ホールの規模、舞台装置等の設備状況などのほかに、各施設が大ホールの他に持っている機能(中・小ホール、ギャラリー、会議室等)の有無及びその規模により、大きく変わっています。
- ・なお、維持管理費には自主事業等の事業経費は含まれておりませんが、人件費には事業スタッフにかかる経費も含まれているため、自主事業への取り組み状況等により、人件費の金額にも差が出ているものと推察されます。

【施設の・運営・管理に対する意見】(つづき)

- ・ 最も簡素な施設とし、管理費を最小限に抑えるべき。(紙)
- ・ イベントを大規模展開しなければ維持の負担が大きくなる。(紙)
- ・ 運営管理費、起債償還費を含めた世帯当たりの負担額を明示すべき。(公)
- ・ 従来 of 箱物行政と同じくしないために、建設後の財政見通しの確実性と、その数字を提示することが重要。(パ)
- ・ 経済危機で不透明な状況の中、公共投資とともに雇用の創出も必要なため、採算面等事業効果を算定すべき。(パ)
- ・ 自動化や既存施設の廃止に伴う人件費の抑制、太陽電池など最新のエコ技術の導入による光熱費の抑制が重要。(パ)



市民意見を踏まえた、運営・管理の方向性についての再検討
運営・管理経費、大規模修繕費等の見込みの精査

建設にあたって

1 他施設との役割分担

上田市にはすでに様々なホールがあり、多くが多目的ですが、概ね次のような役割分担が可能と思われます。

- ・ J T 開発地の交流・文化施設...長野市以東(東信濃地域)の広域的な拠点施設
- ・ 上田文化会館...千曲川右岸地域の創作・発表の拠点
- ・ 丸子文化会館...千曲川左岸地域の創作・発表の拠点
- ・ 上田創造館...上田広域の学習・発表の拠点
- ・ 信州国際音楽村...音楽系を中心とした施設
- ・ 各公民館等の生涯学習施設...市民の日常文化芸術活動に密着した施設

2 建設スケジュール

建設スケジュールとしては、市での基本計画策定後、基本設計及び実施設計として1年～1年6か月、建設工事として2年～2年6か月、竣工から開館までの準備期間として3か月～6か月程度要するものと推定されます。

したがって、21年秋季に基本計画が策定された場合、開館は平成25年度末頃と想定できますので、遺漏のないよう、計画的、段階的に準備を進めるべきであります。

3 整備事業費と財源

整備事業費については、当初市から上限として示されたのは150億円でしたが、今日の経済情勢や市の財政事情を踏まえ、市民の理解に基づく適切な事業費とすることが重要と考えられます。

今回の中間報告にあたっては、常に整備事業費の圧縮も念頭に置きながら、必要な機能や規模等について検討・議論を行ってきました。

今後は、さらに一般市民の意見もお聞きして検討を重ね、最終報告をまとめていくこととなりますが、市側においても、公費の負担軽減に努めるべきであります。国のまちづくり交付金や合併特例債を最大限活用し、財政状況に配慮した整備を進められたい。

【他施設との役割分担に対する意見】

- ・ 市内他施設との役割分担が分かりにくい。(紙)
- ・ 市内既存施設との役割分担が今後の課題。(紙2件)
- ・ 他施設との役割分担について、中央公民館との役割重複が懸念される。(パ)



既存施設との役割分担・連携策等の明確化

【建設スケジュールに対する意見】

- ・ 計画どおり進めるべき。(紙)
- ・ 合併特例債が使える今、施設整備は最後のチャンス。(公・紙)
- ・ 早く、素晴らしい音楽を素晴らしい施設で聴きたい。早期完成を望む。(公)
- ・ 次代を担う子どもたちのためにも、一日も早い実現を望む。(パ)
- ・ 市民の文化交流の場の早期完成を望む。(パ)
- ・ 建設スケジュールについて、不況時の公共投資という意味ではタイミングが遅い。(パ)
- ・ 最初は緑地・広場に取り組み市民の目を向け、次に美術館、ホールを整備すべき。(紙)
- ・ 財政状況からみて、現在つくるべきでない。

【整備事業費と財源に対する意見】

- ・ 合併特例債について、地方交付税措置70%は、現在の国の状況では不透明。(公)
- ・ 大規模な寄付制度により、市民がタッチできる施設整備を。(紙)
- ・ 東信濃地域も含めた内容であれば、東信の市や県から補助してもらうべき。(公)
- ・ 太陽光発電を市民ファンドで設置し、資金を出した人には毎年第9のコンサートに招待するなどの仕掛けも必要。(公)
- ・ 個人的な試算では総事業費100億円で可能。残り50億は運営費とすべき。(公)
- ・ 総事業費は100億以下にすべき。(紙)
- ・ 子どもたちの将来に重荷とならない程度の規模とすべき。(紙)
- ・ 特徴ある施設として必要な機能を絞ること、現上田市民会館は廃止し、運営・管理費を抑制すること、エコ対応施設として国の補助などを利用すること、市民参画の意味からも、市民からの寄付を募ること、が重要。(パ)



施設全体の配置イメージ(モデルプラン)に基づく、整備事業費と財源の精査

参考：その他の意見（市に対するものと思われるものも含む）

【交流・文化施設の整備を含めた、市の文化施策等に対する意見】

- ・ 上田市は山本県など、文化は高いが施設面が非常に弱い。金には替えられない精神性を重んじるべき。(公)
- ・ 上田市の文化を具体的にどのように育てるかが重要。文化は不況時に真っ先に切られるが、育てる方向で進めるべき。(公)
- ・ 上田市には文化が眠っており、それを起こすことが重要。施設ができなければ、市は文化的に最低になる。(公)
- ・ 市に一流の文化が開花するよう期待している。(紙)
- ・ きれいな空気、おいしい水、新鮮な食べ物、暖かな人間関係、何をとっても大都会に劣らない上田市だが、文化の薫りだけが欠けている。「文化」を育て、夢を前進させよう。
- ・ 多少の反対意見があっても文化芸術を大切にしまちづくりを望む。(紙)
- ・ 現在の経済状況は最悪だが、必ず回復する。施設整備は今回の機会を逃せば2度とチャンスはない。(パ)
- ・ 不況の時期で大変とは思いますが、思い切った決断で後悔のないものにして欲しい。(パ)
- ・ 上田市の文化は県内でも遅れている。県内外の施設を研究し良い部分を取り入れるべき。(出)
- ・ 多くの市民が期待し、夢を描いていると感じた。自信を持ってやり遂げてほしい。(紙)
- ・ 新しい交流・文化施設に期待している。(紙2件・出2件・パ)
- ・ 検討委には専門家もいるのであれば、最高のものが出来ると期待している。(出)
- ・ 文化にはお金が必要、運営にも必要な予算を確保すべき。(紙)
- ・ 新しい文化の創造もだが、歴史ある文化と市民の生活を大事に。(紙)
- ・ 人は努力する姿に感動を覚える。松本市のように文化表彰を設けるべき。そういう地道なことが交流・文化施設の理念実現につながる。(公)
- ・ 今までどおり公民館を借りられれば良い。(紙)
- ・ 今時、箱物行政は時代遅れだと思う。建設に反対。(パ)、

【市民公聴会での説明や資料に関する意見、感想等】

- ・ 合併特例債125億は他に必要な場所にも使うよう検討すべき。(紙)
- ・ 合併特例債が有利と言うが、借金の上乗せに変わりない。(パ)
- ・ 今後は税収減も見込まれ、これ以上次世代に大きな負の遺産を残してはならないと思う。(パ)
- ・ 年間3.4億円の維持管理費と起債償還の負担が不安。(公)
- ・ 子どもたちの将来に負担を残すべきではない。(公・紙)
- ・ 少子化を考えると子どもの負担が大きい。(紙)
- ・ 「子孫に借金を残すのか」「他の事業はできるのか」「誰が利用するのか」といった批判もあるが、子孫に「借金」ではなく「文化」を残す施設であることをきちんと理解させて欲しい。(パ)

- ・ 建設には賛成だが、総事業費最大150億円は再検討すべき。(紙)
- ・ 施設費に150億というが本当に必要なことか。市民にとって温かい市政を望む。(紙)
- ・ 今後、市民へのしわ寄せがどの位あるのか。最小限に止めるべき。(紙)
- ・ 市民の後年度負担を抑制する上でも、健全な財政維持を望む。(紙)
- ・ 経費について全市的な圧縮を図り、市民負担が大幅に増加することのないように。(紙)

【進め方に対する意見】

- ・ 上田市そのものが交流・文化都市であり、それを大事にしていくべきで、施設整備にあたっては市民の意見を十分聞いてほしい。(公)
- ・ 150億円の巨額の投資について、いかに市民同意を得るかが重要。(出)
- ・ 市民のまちづくりへの参画が必要。(公)
- ・ 若い人の意見、新しい感覚を取り入れるべき。(公)
- ・ 子どもたちの意見を聞く機会を設けるべき。(紙)
- ・ 市議会特別委員会の意見書を重く見るべき。市民の立場に立った計画を。(公)
- ・ 市民の関心を高め、市民負担も明確にし、建設反対の意見を乗り越えることが重要。(パ)
- ・ 様々な意見を聞くが、ほとんどの人は早期完成を願っている。何年も前から計画され進んで来た。今だからこそやる必要がある。(公)
- ・ 住民投票で市民に賛否を問うべき。(公・紙)

【市政全体、まちづくり等に対する意見】

- ・ 周辺道路の交通渋滞等に十分な配慮が必要。(公・紙2件)
- ・ 「観光」をキーワードにするという点で、ホテルを併設することはどうか。(上田出身の全国的経営者である永山氏の“ルートイン”なら、地元への貢献も期待できるし、「産業観光」のモニュメント的存在として、「公」が主導してもおかしくないと思う)
- ・ 丸子、真田、武石地域といった周辺部がますますさびれていく。(紙)市内全域からのアクセスを考えるべき。(紙)
- ・ 文化施設より病院が必要。(公)
- ・ 文化施設より、小学校、中学校の建て替えが先。(公)
- ・ 今すぐやるべきなのは小中学校の耐震化工事、夏の暑さ対策など、子どもたちのために使うべき。未来ある子どもたちを最優先に。(パ)
- ・ 「人にやさしい」というが、医療、福祉、教育などが先ではないか。(公)
- ・ 子どもは大学に行き、就職すると戻ってこない。若い人が戻って来られる町にしてほしい。(公)

今後の進め方(案)

検討委員会等のスケジュール

項目	5月			6月			7月			8月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
検 委 員 会						第11回 (6/25) 公聴会等報告・課題整理		第12回 (7/15) 報告内容検討			第13回 最終報告案作成	第14回 最終報告まとめ・市長へ最終報告
専 委 員 会						課題検討会 (合同部会)ホール・美術館系		第6回 報告内容検討 委員会		課題検討会 (合同部会)ホール・美術館系		第7回 最終報告素案作成
部 会												
市民対応等	広報うた	5/1日号	中間報告の掲載 市民公聴会のお知らせ				7/1日号	市民公聴会開催報告 パブリックコメント実施報告				
	市民公聴会		市民公聴会開催									
	パブリックコメント		パブリックコメント実施									
	出前講座(随時)											

検討結果報告後の予定

